

来年のインターハイと国体優勝へ、まっしぐら

◎第70回全国高等学校スキー大会
ジャンプ 10位 / 複合 6位

◎第33回全国高等学校選抜スキー大会
ジャンプ 3位 / 複合 6位

成田 健太 さん

なりた・けんた 17歳 〓苗石田〓



平成15年生まれ。花輪高3年。祖父母、両親、弟と暮らす。田山小、安代中卒。いわてスーパークィッズ平成30年度修了生。趣味は読書で、好きな教科は日本史。競技前は総合格闘家堀口恭司の入場曲、ファボラスの「My Time」を聞き、気持ちを高める。174^{cm}、63^{kg}。

2月6日から10日まで長野県飯山市で全国高等学校スキー大会(インターハイ)が開かれ、成田健太さんがジャンプで10位、複合で6位とダブル入賞を果たした。小学1年からクロカンはしていたが、ジャンプを始めたのは中学2年の時と遅く、全国大会での入賞は初。「うれしかった反面、自分はずっと上に行ける」と手応えを感じ、悔しさをにじませた。

同月24日の全国高等学校選抜スキー大会では、ジャンプで3位と初の表彰台。翌日の複合でも6位と、2大会連続2種目で入賞を飾った。

「結果が伴うようになって、今とても充実しています」と息を弾ませるが、これまでの道のりは決して平たんなものではなかった。自分をもっと追い込みたいと進んだ花輪高だったが、1年生のころは大会に出ても毎回下位グループ。先生には怒られてばかりで、よく競技をやめ

たいと思っていた。それでも、サポートしてくれる両親への感謝の気持ちや「絶対に見返してやる」という強い思いを原動力に、トレーニングに励んだ。自宅から花輪高までの22^{km}の通学路は体力づくりのために、4月から10月まではロードバイクで通っている。

季節に関わらず、学校近くの花輪スキー場のジャンプ台を飛び続け、いつしか苦手だったジャンプは、自分の強みへと変わっていった。「ジャンプを始めたいのが遅くても、先にいる人たちに努力で勝っていくのが面白い」と笑みを広げる。ジャンプを重ね経験を積むことで、頂を視野に捉えられるようになった。

来シーズンは、田山でインターハイが、鹿角市で国体が開かれる。「2つの地元で優勝を飾りたい」ときっぱり。「現状には満足していない」。引き締まった表情を浮かべ、1年後の栄光の青写真を描き始めた。

【広告】

いぼ、癌、免疫系等
薬のプロフェッショナルがあなたのご相談を承ります

コミュニティバス「にしね眼科」バス停すぐ

漢方のあさひ薬局 西根中学校前店

公認スポーツファーマシスト
国際中医専門相談員
認定実務実習指導薬剤師

薬剤師 齋藤 貴将

八幡平市大更24-1-118(西根中学校前) TEL.0195-70-2311

■編集後記

▽本号の編集をもって、この係を離れました。下手な取材に笑顔で快く応じていただき、皆さんに助けられながら仕事をしてきた2年間で。ありがとうございます。これからは家に広報が届くのを楽しみにしています。(宏)

▽異動しました。役所っぽくない業務に初めは憂鬱でしたが、年々面白くなり、今は寂しい気持ちでいっぱいです。これも取材に協力してくれた皆さんのおかげ。ありがとうございます。(多)

▽前述のとおり、係長、係員が私を残して一気に異動になりました。おんぶに抱っこで頼っていただけに、寂しいです。5月号からは新しいメンバーでつくった広報をお届けします。(吾)